令和 8 年 11 月 11 日

令和 8 年度 新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞を受賞

～ 清水町 美蔓バイオガスプラントによる地域資源循環と再エネ供給 ～

清水町（町長：辻 康裕)、十勝清水町農業協同組合（代表理事組合長：今野 典幸)、十勝清水バイオマスエネルギー株式会社（代表取締役：泉谷 哲人)、フロー株式会社（代表取締役：須藤 貴宣）は、美蔓バイオマスガスプラントでの取組が評価され、令和 8 年度 新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞を共同で受賞しました。



本取り組みは、地域の酪農資源である家畜ふん尿を活用し、再生可能エネルギーの創出と資源循環を両立させた地域共創モデルです。

地域の酪農家 9 戸と十勝清水町農業協同組合が共同出資し整備した美蔓バイオガスプラント(十勝清水バイオマスエネルギー株式会社)では、家畜ふん尿を原料にメタン発酵を行い、再生可能エネルギーであるバイオガス発電を実施するとともに、適正な発酵管理の下で生み出された消化液の適正利用による資源循環を推進しています。清水町は本施設との連携を強化しフロー株式会社の協力のもと、2021 年 6 月に災害時の地域レジリエンス向上に取り組み、停電時にも運転可能な発電設備を導入するとともに、近隣避難所へ非常用発電機を設置することで、地域防災機能の強化を図りました。さらに 2026 年 1 月からは、プラントで発電した電力を清水町の公共施設へ供給する取り組みを開始しています。こうした酪農家や行政、事業者の連携により、廃棄物処理という地域課題の解決、エネルギーの地産地消、環境負荷の低減、雇用創出、防災力向上を実現していることを高く評価していただきました。

■ **概要**

2019 年 6 月に運転を開始した美蔓バイオガスプラントは、地域の酪農家 9 戸と JA 十勝清水町が共同出資する十勝清水バイオマスエネルギー株式会社によって運営されています。年間約 6 万トンの家畜ふん尿を集約処理し、酪農地域が抱えるふん尿処理や臭気の課題を解決するとともに、消化液を有機質肥料として農地へ還元し、年間約 400 万 kWh の再生可能電力を生み出しています。

適切な設備管理と運転改善を重ねることで、長期間にわたる高い設備稼働率を実現しています。また、2018 年に北海道で発生したブラックアウトの経験を踏まえ、災害時にはプラントを自立起動するとともに、バイオガスを避難所へ搬送して発電することで、地域の非常用電源として活用できる体制を整えています。

さらに、2026 年 1 月からは、プラントで発電した電力を活用し、清水町の公共施設 87 施設に再生可能エネルギー由来の電力を供給することで、従来の家畜ふん尿処理施設としての機能に加え、地域のエネルギー供給を担う施設としての役割を確立しました。

こうした取組を全国に広めるため、民間運営の施設でありながら、地元をはじめ全国各地から毎年多くの見学者を積極的に受け入れています。家畜ふん尿を起点に、農業課題の解決、再生可能エネルギーの地産地消、防災、資源循環を一体化した地域共生型モデルの普及に取り組んでいます。



■ **本件に関するお問い合わせ先**

フロー株式会社　TEL：050-5897-3041